令和６年２月号

マリアの風 web

St.Mary hospital

宗教法人 お告げのマリア修道会
聖マリア病院
●TEL:0959-72-5101
●FAX:0959-74-1771
●URL:https://g-maria.jp/
〒853-0052
長崎県五島市松山町 133-2

災害に対して

院長　山中 淳子

2024 年は衝撃的な年明けとなりました。元旦午後、石川県能登半島を大きな地震が襲い、２日は航空機衝突事故という痛ましい事故がありました。動揺と不安に覆われたスタートとなりました。被災地では家庭でも、職場でも、学校でも、療養の場でも、いつまで続くとも知れない非日常が続いています。温かい布団で眠ったり、ゆっくりお風呂に入ったり、明るい部屋で本を読んだり、温かい食事を摂ったり、そうできることがどれ程有り難いことなのか、ひしと感じています。

この大きなニュースを聞いて、私が感じたことは、一つは被災者のために何ができるだろうか、ということでした。しかし実際には何もできないのです。当院には DMAT のような社会資源もないですし、支援物資を送るにも手段を確保できないし何もできないことを申し訳なく思うばかりです。そしてもう一つ、もし今、同じような災害がここで起こったとしたら、どう動くのか、ということでした。航空機事故では乗務員の方々の適切な判断と行動で乗客全員が救出されましたが、それは日頃からの訓練の成果でしょう。大きな災害や事故に対しての備えが十分できていないことを実感しました。

被災地では復旧・復興に長い時間がかかるでしょう。その中でこれからでも私たちにできることがあれば、積極的に支援に参加していきたいです。また私たちの生活の中には予期せぬ間違いや避け得ない危険があります。その危険に対して命をつなぐために生活をつなぐために、きちんとした備えや実際的な訓練を行って行かなければならないとの思いを強くしました。

院内トピックス

1月4日　仕事はじめ

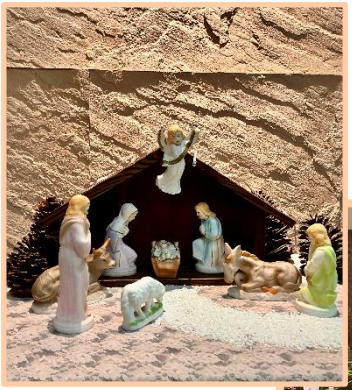
　年始に当たり、新年のあいさつと研修医の紹介がありました。今年も感染症の流行のなかでの仕事はじめとなりました。お互いに支え合って一年を過ごしていきたいと思います。

職員研修会

　全職員を対象とした医療安全と感染対策の研修会を行っています。患者さんを主体とした医療の実践と標準予防策の遵守を確認しました。医療ガスの説明と取り扱い時の注意点が示され、放射線科からの研修会も加わり、内容の濃い研修会となりました。

クリスマス募金報告

　昨年末のクリスマス募金では 49,093 円が集まりました。馬小屋飾りと、祈りの部屋の献金を合わせて、50,000 円をカリタスジャパンへ送金いたしました。感謝を込めてご報告させていただきます。



研修医紹介　久留米聖マリア病院から研修医が来ていますのでご紹介します

山本　嶺王　先生
Yamamoto Reo

プロフィール

①出身地：栃木県
②趣味/興味あること：テニス、ゴルフ、フットサル
　　マラソン、筋トレ、釣り、ダイビング、グルメ
③志望科：脳神経外科
④研修期間：令和５年 12 月３１日～令和６年２月 24 日
⑤聖マリア病院での抱負：医師としての成長
⑥患者さん、スタッフの皆さんへ：
“ 人と人とのつながりを大切にしたい” がモットーです。
精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

ありがとうコーナー

久しぶりに司祭団マラソン大会が開催され、病院前を通過する神父様たちを応援しました。救護係のシスターは、前日から必要物品を準備して、神父様たちの無事をお祈りしました。責任を終えてほっとしたようでした。

ある日のひとこま

暖冬ではありますが、大寒に入るとさすがに気温は下がり、雪の積もる日もありました。シスターたちの畑の冬野菜は甘みが増して美味しくなっていることでしょう。

おしらせ・病院カレンダー

マイナンバーカードの保険証登録について

●マイナンバーカードを保険証として利用登録することで、医療機関を受診できます。

マイナンバーカードを保険証として利用すると、特定検診や薬剤情報の提供に同意することで、総合的な診断や重複する投薬の回避ができたり、窓口で限度額以上の支払いが不要となったりするなどメリットがあります。

●令和６年秋に保険証の廃止が予定されています。

令和６年秋以降、新規に保険証は発行しないこととなっています。
（最大１年間、従来通り使用できるよう、経過措置が設けられる予定です。）

編集後記

長崎で学生だった頃、学校からの帰り道に新地中華街を通っていました。観光客が多く中国訛りの日本語が聞こえ、中華街の門をくぐるときは「おじゃします」という感覚がありました。華僑の人たちの春節祭は、地元商店街や自治会、行政も交えて話し合い、協力することで、ランタンフェスティバルとなり、今では五千人以上の市民ボランティアが関わる長崎の冬の一大イベントになりました。「違い」は跳ね返せば分離の原因になりますが、「違い」を受け入れることで生まれる新しい未来があることを、ランタンに彩られた長崎の景色は教えてくれています。　　(編集者)